

三河鳳来寺旧蔵 暦応二年書写

和漢朗詠集

みかわはうらいじきゅうぞう
れきおうにねんしよしや
わかんろうえいしゅう

『和漢朗詠集』は平安中期、藤原公任（九六六―一〇四二）によって編纂された詩歌のアンソロジーである。成立当初から貴族社会に流通し、平安末から鎌倉初めの時期には幼学書・誰もが十歳前後に学習する書籍）の一つとなった。なかでも、ここに影印する『三河鳳来寺旧蔵暦応二年書写和漢朗詠集』は、以下の特徴を有する学界に未紹介の資料である。

- 一、本文に詳密な訓点（ヲコト点・傍仮名）が施されていること。
- 二、行間・欄上に小字注記（内容は多岐にわたる）が多く書き入れられていること。
- 三、紙背（裏書）に詩語の典拠・用例として漢籍本文が多く引用されていること。

これらの書入れは、平安時代後期から鎌倉時代にかけて主要な博士家（漢学を専門とする家々）で行なわれた『和漢朗詠集』研究の成果を示すものである。なお、書写者の藤原師英は、式家藤原氏の儒者で、東山御文庫蔵九条本『文選』の書写者として名高い。本書は師英の奥書より知られるように、『和漢朗詠集』の訓説を第三者に伝授することを目的として、累代の儒者が自ら書写・校合したものである。書入れの存する『和漢朗詠集』古写本は比較的多く現存しているが、大半は伝授を受ける側（学習者）が書写したものであり、この本のような伝授する側のものは殆ど残っていない。古代・中世日本における「知」の伝授のあり方を如実に示す貴重資料であるといえよう。



『三河鳳来寺旧蔵 暦応二年書写和漢朗詠集』巻姿

本体二〇、〇〇〇円（＋税）

菊倍判上製函入クロス装・二分冊

影印編二六四頁・研究編二四八頁

二〇一四年三月刊行《分売不可》

ISBN978-4-585-29067-4 C3091

本書の特長

- ・『三河鳳来寺旧蔵暦応二年書写 和漢朗詠集』（個人蔵）の全編をフルカラーで影印。同書の全編公開は史上初。
- ・利用の便に供するため、詳密な訓点・小字注記・紙背書入をも忠実に再現した翻印を附した。
- ・解題・論考では、「和漢朗詠集」の全体像を明らかにし、国文学史上の位置づけ、朗詠集研究の到達点を示した。

目次

●影印篇

前言／目次・凡例
影印：巻上／巻下

●研究篇

解題
翻印：巻上／巻下

論考

- 一：『和漢朗詠集』、幼学書への道
- 二：江註と私註――『和漢朗詠集』註釈の視点
- 三：朗詠江註の視点
- 四：『朗詠江註』の発端
- 五：『朗詠江註』と古本系『江談抄』
- 六：大江匡房略伝
- 七：平安貴族の読書
- 八：『古事談』と『江談抄』索引

佐藤道生

（さとう・みちお） 慶應義塾大学文学部教授。専攻は古代・中世日本漢学。著書に『平安後期日本漢文学の研究』（笠間書院、二〇〇三年）、『和漢朗詠集 新撰朗詠集』（柳澤良一氏と共著、和歌文学大系四七、明治書院、二〇一一年）などがある。

佐藤道生〔著〕

三河鳳来寺旧蔵 暦応二年書写

和漢朗詠集

影印と研究

古代・中世日本における「知」の伝授の様相を伝える
貴重伝本を全編原色で初公開。

詳密な訓点、注記、紙背書入を忠実に再現した翻刻、
「和漢朗詠集」研究の到達点を示す解題・論考を附した必備の書。

春

立春

逐次

潜用

不待

手非

之候

逐

春

作

愛将希

雨露之恩

立春日内園使道生賦
云々

勉誠出版

勉誠出版

〒101-0051 千代田区神田神保町 3-10-2 TEL=03-5215-9021 FAX=03-5215-9025
E-mail=info@bensei.jp Website=http://bensei.jp/

書店番線印

冊数

冊

セツ価格・本体30,000円（＋税）

菊倍判上製函入クロス装・2分冊
頁数・影印編264頁・研究編248頁
2014年3月刊行《分売不可》
ISBN978-4-585-29067-4 C3091

三河鳳来寺旧蔵 暦応二年書写

和漢朗詠集

影印と研究

佐藤道生〔著〕

ご送付先・通信欄

夕くばや人小るじやまきく
てふりていへふと森素性

落花

落花不語空辭樹流水無心自入池
モノイハ
白 過履信元家
宅六七

朝踏落花相伴暮隨飛鳥一時歸
タテ
暁
白 與李賓
郊外同遊贈
之

春花面闌入酣暢之筵晚鶯聲々豫參
暁
白 與李賓
郊外同遊贈
之

講誦之座
史記竟宴序
春日陪都督大王讀史記序

落花狼藉風狂後啼鳥龍鍾雨打時
楊巨源詩有狼藉龍鍾爲對之詩
借殘春
江相公

てことにおりていへつとにせむ 素性

落花

落花不語空辭樹流水無心自入池
モノイハ
白 過履信元家
宅六七

朝踏落花相伴出暮隨飛鳥一時歸
タテ
暁
白 與李賓
郊外同遊贈
之

春花面々闌入酣暢之筵晚鶯聲々豫參
ハニシ
暁
白 與李賓
郊外同遊贈
之

講誦之座
史記竟宴序
春日陪都督大王讀史記序
江相公

落花狼藉風狂後啼鳥龍鍾雨打時
タフレ
借殘春
江相公

〔書人〕楊巨源詩、有狼藉龍鍾爲對之詩。

〔裏書〕藝文類聚、周王褒與周弘讓書曰、會見之期、長無日矣。援筆攬紙、龍鍾橫集。

離閣鳳翎憑檻舞下樓娃袖顧階翻
ル、
タル
ク（朱）
オル、
ヘル
落花還遶樹
菅三品

さくらちるこのしたかせはさむからて

そらにしられぬゆきそふりける 貫之

とのもりのとものみやつこ心あらは

原寸大組見本

右頁…影印
左頁…翻印

影印はほぼ原寸大（95%縮小）で掲載。
翻印は訓点・注記・紙背書き入れをも忠実に再現。